



# 泗水小だより



泗水小学校  
学校だより No.26  
文責 芹川博文  
11月10日(金)

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 泗水小」

## 「言葉は大切だよ。ゆっくり読みなさい。」 ～ 5年生の水俣学習から ～

5年生が水俣の地で学んできました。そこで語られた語り部の永本賢二さんの言葉を紹介しします。

「中学生の時は助かった。なぜなら、寄り添ってくれる人がいたから。一人は先生。その先生は、『言葉は大切だよ。ゆっくり読みなさい。』と言ってくれた。もう一人は先輩。その先輩は、『障がい者の時代も、水俣病の時代も、必ず来るから頑張れよ。』と言ってくれた。」



お二人の言葉、それぞれに奥深さを感じます。言葉の大切さと、自分のペースで学び続けることの大切さを伝えた先生。そして、先の時代を思い描き、必ず今の状況は変わっていくと展望を示した先輩。お二人の言葉が、永本さんの心に火をつけ、生きる希望を与えたのでした。

私たちは、一言の言葉に励まされます。大きな力を得ます。時には、言った人は全く覚えていない何気ない言葉の時もあります。しかし、その言葉をもらった本人にとって、大きな影響をもつ「支え」となり、心が強くなるのです。言葉と思いを大切にしていきたいと思われました。



## 「没頭力」「楽しみ力」に感動 ～ がまだせタイムで盛り上がる姿から ～



「没頭力」というべきか「楽しみ力」と言うべきか。泗水小名物？朝の「がまだせタイム」の時の、子どもたちのエネルギーに感動しました。

「がまだせタイム」のお題は毎回変わります。今回は隣の人が机を「トトン」とたたいたら、自分も「トトン」とたたき、次の人に回す。学級全員で回り終わる時間をどれだけ短くするかという活動。基本は他のクラスとの競争ではなく、学級内でタイムを縮めるもの。とてもシンプルな活動です。

感動したのは、子どもたちの没頭する力、集中して楽しむ力です。スタート前の緊張感と静寂、そしてタイムが出た時の達成感と大歓声。それぞれの学級で繰り広げられていました。

泗水小の子どもたちの長所は？と聞かれたら、私は、「明るさ」「人懐っこさ」と並んで「遊ぶ力」と答えます（他にも沢山あります）。

本気で遊べる人は、本気で熱中して頑張れると思います。特にストレスの多い時代、「遊び」そのものも大切ですが、いわゆるハンドルの「あそび」のように、心のゆとりも大切になります。時には視点を換え、どうせやるなら楽しく頑張れる、そんなエネルギーを泗水小の子どもたちから感じます。そして「大人も本気で遊ばねば」とも思われました。

## 「経験をする事で、選択肢がどんどん広がる」～ 阪神 近本選手の言葉から ～

プロ野球日本シリーズで阪神タイガースが優勝しました。阪神の1番打者、最高殊勲選手(MVP)に輝いた 近本 光司(ちかもと こうじ)選手の新聞記事(一部)を紹介させていただきます。

(前略) 育ったのは兵庫県淡路島。「電車もない、大きい建物もない、近くにプロ野球もない」という環境で育った。そんな経験から、鹿児島県の沖永良部島で自主トレーニングをしていた縁で、島の子どもたちを球場に招待している。

それは野球を見てほしいからという理由だけではない。「島の中の生活で、進路の選択肢が狭い中で決めちゃう」と感じるからこそ、島の外で他の世界を見る機会をもってもらいたかった。

「経験をする事で、もっと勉強をしてみたいとか、選択肢がどんどん広がる」という思いがある。(後略)

【令和11月7日(火)熊日新聞より】

ちなみに阪神には今季12勝を挙げた熊本出身の大竹投手や、ドラフト4位で入団する菊池市出身、熊本泗水ボーイズ所属だった百崎選手もいます。果敢にチャレンジする姿に元気をもらいます。